

重要

【麻疹及び風しんの予防接種を受けるに当たっての説明】

予防接種を受ける前に、必ず記載されている内容をよく読み、十分理解してください。

説明文を読んで、もしわからないことがあれば、接種を受ける前に市健康増進課や接種医に質問しましょう。
必ず納得された上でお子様に接種することを決めてください。

1 麻疹・風しんについて

① 麻疹（はしか）

感染経路 : 空気感染（空気中に飛び出したウイルスが1mを超えて感染します）・飛沫感染・接触感染

潜伏期間 : 約10～12日（感染した後、症状が出るまでの期間です）

主な症状 : 発熱、せき、鼻汁、めやに、赤い発しん

症状の経過 : 症状が出始めてから3～4日は38℃前後の熱が出て、せき、鼻汁、めやにといった症状が続きます。

その後一時熱が下がりますが、再度39～40℃の高熱となり、首すじや顔などから赤い発しんが出始め、その後発しんが全身に広がります。高熱は3～4日で解熱し、次第に発しんも消失しますが、しばらく色素沈着が残ります。

合併症 : 麻疹は免疫力を低下させる性質があり、3割程度の患者に合併症を引き起こします。

主な合併症として、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。

中耳炎7～9%、肺炎約6%、**脳炎は約1,000人に1人の割合で発生がみられます。**

その他 : かかった人のうち、1,000人に1人程度の割合で死亡することがあります。

麻疹にかかると数年から10数年経過した後に亜急性硬化性全脳炎（SSPE）という重い脳炎を発症することがあります。これは、麻疹にかかった者のうち約10万人に1人の割合で見られます。

② 風しん

感染経路 : 飛沫感染（空気中に飛び出したウイルスが約1mの範囲で感染します）

潜伏期間 : 約14～21日（感染した後、症状が出るまでの期間です）

主な症状 : 赤い発しん（麻疹より淡い色）、発熱、首のうしろのリンパ節の腫れ

他の症状 : せき、鼻汁、目の充血

症状の経過 : 症状が出始めてから3日程度で熱も発しんも治まります（このため「三日はしか」と呼ばれることがあります）

合併症 : 合併症を引き起こすことがあります。合併症として関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。

血小板減少性紫斑病は風しん患者約3,000人に1人、脳炎は風しん患者約6,000人に1人ほどの割合です。

その他 : 大人になってからかかると子どもの時より重症化する傾向が見られます。

妊婦が妊娠早期に風しんにかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により、心臓病、白内障、聴力障害などの障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。

2 麻疹風しん予防接種の効果と副反応について

予防接種を受けたお子様のうち、95%以上が免疫を獲得することができます。体内に免疫ができると、麻疹や風しんにかかることを防ぐことができます。

ただし、予防接種を受けることで、軽い副反応がみられることがあります。また、極めて稀に重い副反応がおることがあります。副反応とはワクチンの接種により体に生じる不都合な反応のことです。みられる反応は下記のとおりです。

① 麻しん風しん混合ワクチン

(麻しんと風しんの予防接種を同時に実施するときに使用するワクチンです。通常このワクチンを接種します。)

主な副反応 (接種後5～14日の間に多く見られます)

- ・発熱 (接種した者のうち20%程度)
- ・発しん (接種した者のうち10%程度)

その他の副反応

- ・過敏症状 (接種直後から翌日にみられる発熱、発しん、かゆみなどのことです。通常1～3日でおさまります)
- ・局所反応 (注射をした場所が赤くなったり、腫れたり、硬くなったりすることです。(一過性で通常数日中に消失します))
- ・リンパ節の腫れ (一過性で通常数日中に消失します)

稀に生じる重い副反応

- ・ショック・アナフィラキシー様症状 (じんましん、呼吸困難など) 100～150万人接種当たり1人以下
- ・急性血小板減少性紫斑病 (紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血など) 100万人接種当たり1人程度
- ・脳炎 (100万人接種あたり1人以下)
- ・けいれん

② 麻しんワクチン

(麻しんの予防接種のみを実施するときに使用するワクチンです。)

主な副反応 (接種後5～14日を中心としてみられます)

- ・37.5℃以上 38.5℃未満の発熱 (接種した者のうち約5%前後)
- ・38.5℃以上の発熱 (接種した者のうち約8%前後)
- ・麻しん様の発しん (接種した者のうち約6%前後)

※発熱の期間は通常1～2日で、発しんは少数の紅斑や丘しんから自然麻しんに近い場合もあります。

その他の副反応 (ほとんどは一過性のものです)

- ・接種した部位の発赤、腫れ
- ・熱性けいれん (約300人に1人)
- ・じんましん

稀に生じる重い副反応

- ・脳炎・脳症 (100～150万人接種当たり1人以下)
- ・亜急性硬化性全脳炎 (SSPE) (自然の麻しんウイルスに感染し、発症した場合の1/10以下程度)
- ・ショック・アナフィラキシー様症状 (じんましん、呼吸困難など) 100～150万人接種当たり1人以下
- ・急性血小板減少性紫斑病 (紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血など) 100万人接種当たり1人程度

③ 風しんワクチン

(風しんの予防接種のみを実施するときに使用するワクチンです。)

主な副反応

- ・発しん、じんましん、紅斑、掻痒 (かゆみ)、発熱、リンパ節の腫れ、関節痛

稀に生じる重い副反応

- ・ショック・アナフィラキシー様症状 (じんましん、呼吸困難など) 100～150万人接種当たり1人以下
- ・急性血小板減少性紫斑病 (紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血など) 100万人接種当たり1人程度

3 予防接種による健康被害救済制度について

○定期的な予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

○健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障害が治癒する期間まで支給されます。

○ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等）によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

○麻しん風しん予防接種（第2期）は、4月1日から翌年3月31日までの1年の間に実施することとなっていますが、その期間を過ぎて接種を希望する場合、予防接種法に基づかない接種（任意接種）として取り扱われます。その接種で健康被害を受けた場合は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく救済を受けることとなりますが、予防接種法に比べて救済の額が概ね二分の一（医療費・医療手当・葬祭料については同程度）となっています。

※給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、保健所、市役所健康増進課へご相談ください。

4 接種に当たっての注意事項

- ① 接種当日は、朝からお子さんの状態をよく観察し、ふだんと変わったところのないことを確認してください。体調が悪いと思ったら、かかりつけ医に相談の上、接種するかどうか判断するようにしてください。
- ② 予診票への記入内容は接種する医師への大切な情報です、接種当日に責任をもって記入するようにしてください。
- ③ 接種会場には必ず保護者が同伴してください。

お子様が以下の状態の場合には予防接種を受けることができません。

- ① 明らかに発熱（通常 37.5℃以上をいいます）がある場合
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- ③ 受けるべき予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシー（ひどいアレルギー反応）を起こしたことがある場合
- ④ 明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する場合及び免疫抑制をきたす治療を受けている場合
- ⑤ その他、医師が不適切な状態と判断した場合

お子様が以下の状態の場合には予防接種を受ける際に注意が必要です。

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発達障害などで治療を受けている場合
- ② 予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられたお子さん及び発疹、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられた場合
- ③ 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある場合
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされている場合及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる場合
- ⑤ ワクチンに含まれる卵や抗生物質、安定剤などの成分にアレルギーがあるといわれたことがある場合

接種後の注意

- ① 予防接種を受けた後30分間は、医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐに連絡がとれるようにしておいてください。
- ② 予防接種後、生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の発現に注意してください。
- ③ 接種部位は清潔に保ち、こすらないようにしてください。当日の入浴は差し支えありませんが、激しい運動はさけましょう。
- ④ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。